

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所あゆみ		
○保護者評価実施期間	令和6年12月10日		令和7年1月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	令和6年8月1日		令和6年8月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種で介入できること	カンファレンスやグループ支援に保育士とセラピスト等の専門職が入り介入している。	より多角的な職種での介入を通して児の全体発達をより詳細に捉えられるようにする。
2	市内で肢体不自由に対する運動支援を行う事業所が当センターしかない。	支援回数を調整し、必要な児に必要な支援が行えるような体制にしている。	地域の事業所で支援していけるよう、巡回支援や機関支援を通して支援の拡充を図る。
3	親子で通所できる事業所であること。	親子通所を通してお子さんの支援だけでなく、保護者に対して育児に関する相談や関わり方、ホームプログラム立案等の支援を行っている。	お子さんや保護者様から相談しやすい環境を作るため、必要に応じて保護者様との面談や交流会等が行える体制を整備していく。

	事業所の弱み(※) と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	サービスの提供が限られる。	一人あたりの業務負担が大きい。	随時、業務改善を行っている。
2			
3			